

平成 30 年度

枚方京田辺環境施設組合
決算審査意見書

枚方京田辺環境施設組合監査委員

目次

第 1.	審査の対象	2
第 2.	審査の期間	2
第 3.	審査の方法	2
第 4.	審査の結果	2
第 5.	決算の概要	3
1.	決算の状況	3
2.	歳入	4
3.	歳出	6
4.	財産の状況	8
第 6.	意見	8

(凡例)

1. 文中及び各表中の金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満を四捨五入して表示したため、総数と内訳等が一致しない場合がある。
2. 文中及び各表中の比率は、原則として小数点以下第 2 位を四捨五入し、第 1 位まで表示したため、合計と内訳の比率が一致しない場合がある。
3. 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
「－」 …… 比較不能、不用のもの又は該当数値のないものを示す
「△」 …… 負数を示し、増減を示すときは減を示す

枚 京 監 第 1 5 号
令和元年（2019年）9月27日

枚方京田辺環境施設組合
管理者 上村 崇 様

枚方京田辺環境施設組合
監査委員 分林 義一
監査委員 藤田 幸久

平成30年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算審査意見書の提出について

地方自治法第233条第2項の規定により審査に付された、平成30年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算書その他政令で定める書類を審査したので、その結果について、次のとおり意見を提出する。

第 1. 審査の対象

平成 30 年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算

平成 30 年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算事項別明細書

平成 30 年度枚方京田辺環境施設組合一般会計実質収支に関する調書

平成 30 年度枚方京田辺環境施設組合財産に関する調書

第 2. 審査の期間

令和元年 8 月 27 日から令和元年 9 月 27 日まで

第 3. 審査の方法

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、関係法令に準拠して作成されているか、計数の正確性、事務処理の適否、予算執行状況等について検討するため、関係諸帳簿を照合し、また、関係職員から説明を受け審査を行った。

第 4. 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、決算の計数は、関係諸帳簿と符合して正確であると認められた。また予算執行及び事務処理についても、例月現金出納検査・定期監査を通じて検査・監査した結果、おおむね良好に処理されていた。

第5. 決算の概要

1. 決算の状況

平成30年度の決算額は、予算現額2億4,870万2千円に対して

歳入 2億2,803万7千円

歳出 2億2,773万7千円

となっており、前年度に比べ、歳入で6,666万5千円(41.3%)増加し、歳出で7,682万8千円(50.9%)増加している。

歳入歳出差引き(形式収支)、実質収支ともに30万円の黒字となっており、前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支は1,016万3千円の赤字となっている。

歳入歳出決算状況は、次表のとおりである。

歳入歳出決算状況

(単位：千円、%)

区分	平成30年度	平成29年度	増減額	増減率
予算現額	248,702	166,429	82,273	49.4
歳入決算額 (A)	228,037	161,372	66,665	41.3
歳出決算額 (B)	227,737	150,909	76,828	50.9
歳入歳出差引額(形式収支額) (A) - (B) (C)	300	10,463	△10,163	△97.1
翌年度へ繰り越すべき財源 (D)	0	0	0	0
実質収支額 (C) - (D) (E)	300	10,463	△10,163	△97.1
前年度実質収支額 (F)	10,463	981	9,482	966.6
単年度収支額 (E) - (F)	△10,163	9,482	△19,645	△207.2

2. 歳入

(1) 歳入の概要

決算額は2億2,803万7千円で、予算現額2億4,870万2千円に対して2,066万5千円の減となり、執行率は91.7%である。また、調定額2億2,803万7千円に対する収入率は100.0%である。

決算額を前年度と比較すると6,666万5千円（41.3%）増加している。

決算額の内訳は、次表のとおりである。

(単位：千円、%)

款	平成30年度				平成29年度		対前年度比較 (収入済額)	
	調定額	収入済額	収入率	構成比	収入済額	構成比	増減額	増減率
分担金 及び 負担金	177,624	177,624	100.0	77.9	122,224	75.7	55,400	45.3
国庫 支出金	39,950	39,950	100.0	17.5	19,433	12.1	20,517	105.6
諸収入	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0
繰越金	10,463	10,463	100.0	4.6	19,715	12.2	△9,252	△46.9
合計	228,037	228,037	100.0	100.0	161,372	100.0	66,665	41.3

※収入率・・・収入済額/調定額（以下同じ）

※構成比・・・収入済額合計に占める比率

(2) 歳入の収入状況

歳入の状況を款別にみると、次のとおりである。

1 款 分担金及び負担金

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
198,287	177,624	177,624	0	0	100.0

収入済額は1億7,762万4千円で、前年度に比べ5,540万円(45.3%)増加している。内容としては、構成市からの負担金収入である。

2 款 国庫支出金

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
39,950	39,950	39,950	0	0	100.0

収入済額は3,995万円で、前年度に比べ2,051万7千円(105.6%)増加している。内容としては、環境省からの交付金収入である。

3 款 諸収入

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
2	0	0	0	0	0.0

4 款 繰越金

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
10,463	10,463	10,463	0	0	100.0

収入済額は1,046万3千円で、前年度に比べ925万2千円(46.9%)減少している。

3. 歳出

(1) 歳出の概要

決算額は2億2,773万7千円で、予算現額2億4,870万2千円に対して2,096万5千円の減となり、執行率は91.6%である。

決算額を前年度と比較すると7,682万8千円（50.9%）増加している。

決算額の内訳は、次表のとおりである。

（単位：千円、%）

款	平成30年度		平成29年度		対前年度比較 (支出済額)	
	支出済額	構成比	支出済額	構成比	増減額	増減率
議会費	284	0.1	280	0.2	4	1.4
総務費	116,235	51.0	122,649	81.3	△6,414	△5.2
衛生費	111,218	48.8	27,981	18.5	83,237	297.5
予備費	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	227,737	100.0	150,909	100.0	76,828	50.9

(2) 歳出の性質別経費の状況

性質別に経費を分類すると、次表のとおりである。

（単位：千円、%）

区分		平成30年度		平成29年度		対前年度比較 (支出済額)	
		支出済額	構成比	支出済額	構成比	増減額	増減率
義務的 経費	人件費	237	0.1	279	0.2	△42	△15.0
その他 経費	物件費	114,792	50.4	38,541	25.5	76,251	197.8
	補助費等	112,708	49.5	112,089	74.3	619	0.6
合計		227,737	100.0	150,909	100.0	76,828	50.9

※性質別分類区分

- 人件費・・・報酬、災害補償費
- 物件費・・・旅費、交際費、需用費、
役務費（自動車損害保険料を除く。）
委託料、使用料及び賃借料、備品購入費
- 補助費等・・・報償費（報償金）、役務費（自動車損害保険料）、
負担金、補助及び交付金

(3) 歳出の執行状況

歳出の状況を款別にみると、次のとおりである。

1 款 議会費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
541	284	0	257	52.5

支出済額は28万4千円で、前年度に比べ4千円(1.4%)増加している。
不用額は25万7千円で、執行率は52.5%となっている。

2 款 総務費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
121,545	116,235	0	5,310	95.6

支出済額は1億1,623万5千円で、前年度に比べ641万4千円(5.2%)減少している。この主な要因としては、財務会計及び公会計システム導入等に係る委託料などが減少したことによるものである。

不用額は531万円で、執行率は95.6%となっている。

3 款 衛生費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
125,616	111,218	0	14,398	88.5

支出済額は1億1,121万8千円で、前年度に比べ8,323万7千円(297.5%)増加している。この主な要因としては、環境影響評価業務等に係る委託料などが増加したことによるものである。

不用額は1,439万8千円で、執行率は88.5%となっている。

4 款 予備費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
1,000	0	0	1,000	0

4. 財産の状況

(1) 公有財産（土地・建物）

該当なし

(2) 物品（取得価格又は評価額が 50 万円以上の備品）

区分	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
財務会計システムハードウェア	1	0	1

(3) 債券

該当なし

(4) 基金

該当なし

第 6. 意見

平成 30 年度の決算額は、歳入は 2 億 2,803 万 7 千円で、前年度に比べ 6,666 万 5 千円 (41.3%) 増加し、歳出は 2 億 2,773 万 7 千円で、前年度に比べ 7,682 万 8 千円 (50.9%) 増加している。

歳入歳出差引き（形式収支）、実質収支ともに 30 万円の黒字となっており、前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支は 1,016 万 3 千円の赤字となっている。

赤字となった要因は、構成市の負担を軽減するため、極力、余剰金を出さないという方針のもとで、きめ細やかで、的確な予算執行に取り組まれた結果である。

現在、環境影響評価において、方法書に対する知事意見を踏まえ、追加調査を実施されており、今後も引き続き、効率的かつ効果的に事務事業を進めていくため、次の点に留意して取り組まれるよう要望する。

- ① 事務事業の執行については、今後も国庫補助金等の確保を図るとともに、経費節減に取り組まれ、より一層効率的・効果的な財政運営に努めること。
- ② 平成 30 年度には大きな入札・契約事務は発生しなかったが、今後、施設の建設・運営事業者の選定業務を行っていくことから、より一層の事務の透明性、公平性、公正性及び競争性の確保に努めること。
- ③ 事務事業の実施にあたっては、引き続き透明性と説明責任を図り、両市の市民等に対し、適切な情報提供に努めること。
- ④ 予算編成にあたっては、事業の精査を十分行い、適切な予算措置に努めること。